

令和元年度 第1回 横浜市自転車等施策検討協議会 議事録

日時	令和元年9月2日（月） 14：00～16：00
開催場所	情文ホール
出席者	委員：委員名簿を参照 事務局
資料	次第、委員名簿、説明用資料、参考資料

1. 開会

①開会あいさつ

※開会あいさつ後、会議の公開等に関する説明

※以降の議事進行を議長に引き継ぎ

2. 議事

(1) 各施策の実施状況について

(事務局)

※資料を用いて、「各施策の実施状況（上半期：4月～8月）について」説明

(鈴木美緒委員)

- ・ 「重点エリアでの自転車通行空間の整備推進（P22）」にて、整備後、左側通行が増え効果が認められるとのことだが、逆走（右側通行）の場合、右側に目的地があるなどの発生事由の把握はされているか。

(事務局)

- ・ そこまでは把握していない。

(鈴木美緒委員)

- ・ 「みなと大通りの道路再整備検討」について、歩道幅員が広く自転車通行帯が狭い場合、自転車が歩道を通行してしまうなどの他での事例があるが、どのように幅員を決めるのか。バリアフリーなどの観点もあるかと思うが、自転車が歩道を通ってしまうこともあるため、今後考えてほしい。

(事務局)

- ・ 現行案では、歩道はイベントやたまり空間の確保などの意味を持たせて最大限幅員を確保したものであるとしている。詳細は今後設計を行い、検討する。

(鈴木美緒委員)

- ・ 「観光や賑わいあるまちづくりでの自転車活用の推進（P40）」にて、賑わいの創出とは何か。「サイクルスタンプラリーアンケート結果（立寄施設）（P55）」の回答に「その他（施設）」が多かったということから賑わい創出に寄与したという評価になるのか。自転車を停める場所がある、荷物が置けるなどもあれば、もっと滞留する時間が増えたのではないか。

(事務局)

- ・ スタンプポイントを16箇所回った方が多かったこと自体、賑わい創出に効果があったと考えている。サイクルスタンプラリーを契機に今まで行ったことのないところに行ったという回答も多

く、新たに訪れてもらえる機会となったとも考えられる。

- ・ また、「その他施設への立寄り」が多いことは、スタンプポイント以外を回って頂いたということで、賑わい創出に寄与したのではないかと考えている。
- ・ サイクルラック等については、まさに課題である。それがあれば、もう少し滞在時間も伸びたかもしれない。

(鈴木潤委員)

- ・ サイクルスタンプラリーに自分も参加した。今年で終わりなのか。組合員同士で一緒に走り、評判は良かった。自転車店側からは、お客様と一緒に走りたいという意見があった。例えば商店街は自転車が走れるような場所ではないが、そういった場所では「自転車を押し歩きする」と教えるなど、交通ルールの啓発という点でも効果がある。
- ・ スタンプポイント以外に立ち寄った場所も楽しかった。スタンプラリーについては、是非、継続頂きたい。

(事務局)

- ・ 鈴木委員から頂いたような声も多く聞いている。相乗効果も高いと感じている。イベントの実施については、引き続き検討していきたい。
- ・ イベントを通して交通ルールも教われるということは重要であり、今後の課題と考えている。

(絹代委員)

- ・ サイクルスタンプラリーでスタンプ押印数16個が多かった理由のひとつに、おそらく大人も好きな「ひつじのショー」とのコラボもあり、賞品のサイクルジャージも大変魅力的だった。
- ・ ルールを教えるという点で、今後のイベントでは自転車専用通行帯を整備したところを紹介などしてはどうか。
- ・ 女性の参加率が高い。おそらく子供と一緒に参加しているなど、一般のイベントとは違う属性の方が参加していると考えられる。
- ・ 今まで自転車を実用・近場でしか使っていないのを楽しみで使うなど、まちや自転車に対する印象が変わるいい機会になった。今後、例えば、自転車歓迎の店舗と連携して行うなども考えられる。
- ・ スタンプラリーのパンフレットにルールの記載があるが、どうしてそのルールがあるのか分かるようにすると良い。書き方についても精査し、「だから守る必要がある」と理解できるような形にしていく必要がある。
- ・ 「計画推進の指標 (P63)」で、ルールの認知度、保険の加入率は現時点から減ることはなく、絶対に達成するのではないか。ルールを伝えるというところの指標は、再考する必要があるように感じる。
- ・ ルールの伝え方を考えていきたい。指導マニュアルを作るというのがあるが、実現するのか。保育園の保護者でもカゴにお子さんを入れてくる、ヘッドホンをしている、ヘルメットをしない方もいる。
- ・ 横浜市の保育園にお子さんを預ける条件として、ルールを守らねばいけないとか、お母さんが集まるような場所でしっかり伝えるなどといった動きが出るとよい。委員の皆様の知恵、ヘルプも頂きながら、効果の出る形を考えて頂きたい。

(事務局)

- ・ 身近なところ、地元でできることとして、逗子市では店舗と連携してスタンプラリーを行っている。その辺りも参考にしたい。
- ・ 自転車専用通行帯については、今回のスタンプラリーではみなとみらいを設定していたので、赤レンガ倉庫付近で走ってもらえたかと思っている。
- ・ ルールの話は、守らないとどうなるのかということも、今後考えていきたい。
- ・ 指標については、アンケートで現状を把握した上で、それを現状値としている。
- ・ 指導マニュアルは小学校の先生用には作っている状況であるが、保育園の先生にはまだ対応していない。子育て拠点などの人が集まるような場所、イベントで積極的にやっていきたい。

(八郷委員)

- ・ 「思いやり SHARE THE ROAD 運動 (P10)」は良い取組だが、路線バスは、幅員などが厳しい条件の道も通っている。自転車とバスのお互いが WinWin というのは、なかなか厳しい状況である。
- ・ 乗り合いバスの事故で多いのは、車内事故であり、自転車が原因の急ブレーキでの転倒なども起こっている。啓発ポスターにはバスを追い越す場合は注意してほしいなどの文面も一緒に入れてほしい。

(事務局)

- ・ SHARE THE ROAD は双方が少しずつ思いやりをもって「余裕をもって」というような意味合いである。車に対してだけでなく自転車に対しての啓発でもある。今後も協力頂きたい。

(阿部委員)

- ・ 保険の義務化について、加入義務・努力義務・条例なしの自治体を比べると、加入義務がある方が保険加入率が高くなる状況である。その点で今回保険の義務化がされたことは良かった。
- ・ 自転車の活用推進はサイクリストのためだけであってはならない。自転車に乗らない人や地域の理解も得ていくことが必要である。今回のスタンプラリーでは、サイクリストの参加が多かったと思うが、誰でも気軽に参加できるような仕組みやイベント以外での機会創出も重要である。またスタンプラリーでは 30~50 代の参加が多かったということで、この年代は運動習慣がある人の割合が少ないため、自転車を健康に活かすという視点からも、継続的な機会が創出できると良い。

(事務局)

- ・ 保険の義務化により、今後保険加入率を高めたいと考えている。
- ・ イベントは自転車に乗る人だけでなく乗らない人も含めて、みんなが WinWin になればよいと考えている。幅広い層が参加することで、広く市民の健康増進にもつながる。

(岡崎委員)

- ・ 自転車関連イベントは、ターゲットの設定しだいで企画内容が変わる。サイクリスト向けなのか、乗り方を覚えてもらうためなのか等でやり方も変わる。自転車で目的地まで行ってもらうという内容であれば、受入施設側の協力が必要であり、その状況や環境にも注意するべきである。スタンプポイントとなった施設側が今回のイベントをどう受け止めたかも重要である。

(事務局)

- ・ 欲張ったかもしれないが、サイクルスタンプラリーでは家族連れからサイクリストまで幅広くターゲットとした。
- ・ このようなイベントの開催は本市では初めてであったため、施設側の対応もまちまちであり、このイベントをきっかけにサイクルラックをつけて頂いた施設もあった。今後、施設側にも意見を聞いていきたい。

(絹代委員)

- ・ 今後の自転車イベントにおいて、サイクルラックがないという事態は避けるべき。自転車を受け入れる環境を施設側と一緒に計画してほしい。
- ・ 「SHARE THE ROAD」について、一般の人には伝わりづらく、そもそもなんと読んでいいかわからない人も多いのではないかと。伝えたい内容がもっと伝わるように検討すべきである。
- ・ 保険加入に関するアンケートを実施とのことだが、自転車保険は気づかないうちに他の保険でカバーされているケースも多い。集計上、配慮すべきではないか。

(事務局)

- ・ 自転車の受け入れについては、ご指摘の通りで、湘南のほうはコンビニの前にラックがあったりして、街全体として環境が整っている部分があった。今後、横浜でも進めていければと考えている。
- ・ SHARE THE ROAD の伝えたい内容については、分かりづらい部分もあると思う。今後より良い伝え方を考えていきたい。
- ・ 自転車保険については今後集計する中で分析していきたい。

(2) 指標の設定状況について

※資料を用いて、「指標の設定状況について」説明

(鈴木美緒委員)

- ・ アンケートの設問で交通ルールの認知度を測るのは難しいのではないかと。交通状況を毎年観測するなど、他の調査も行った上で評価すべきである。

(事務局)

- ・ 交通ルールについては、「知らない」「知っているけど守っていない」「守っている」という段階があり、そのようなことからこの形になった。フォローアップに関する調査については手法を相談させてほしい。
- ・ 鶴見の自転車通行空間整備の事例で、通行方向の遵守率を測定したが、左側通行が増えたのは矢印が書いてあるのが大きいと考えている。今後も新たに整備する箇所では同様の測定はやっていきたい。

(絹代委員)

- ・ 矢羽の効果があったのはよいことだが、今後の整備予定が3年間で10kmと短く、それで市全体で左側通行が増えたという評価になるのもどうか。矢羽を引いたところでルール遵守が増えた、そもそもルールの認知度が上昇したという2つの観点からみてほしい。

(事務局)

- ・ ご意見を参考に、今後アンケートの設問等を検討したい。

(岡村会長)

- ・ ルールの認知と遵守は両方見ることができた方がよい。警察でもルール遵守の啓発としてイエローカードなどの取組を行っているので、それらの情報提供も頂ければ、この場でも議論できるかもしれない。
- ・ 指標について、計画において実施することになっている内容についてはやらないといけない。
- ・ 全体を通して何か意見はないか。無いようであれば、事務局にお返しする。

(事務局)

- ・ 今日は計画を推進するにあたっての貴重なご意見を伺った。今後も協議会の場でご意見を伺っていきたい。
- ・ 以上をもって、第1回横浜市自転車等施策検討協議会を終了する。
- ・ 次回は今年度末（2～3月）を予定する。

閉会